



## 伝統技術の継承「武田流門松」で組合をPR

山梨県造園建設業協同組合  
協同組合甲府市造園協会

**伝** 統的な門松づくりの技術を次世代に継承するため、山梨県造園建設業協同組合（帯金岩夫理事長 組合員33社）では「武田流門松」の製作技法を学ぶ講習会を開催した。

「武田流門松」は武田信玄公が考案したとされる正月飾りで、「竹の先端を水平に切る、竹は松より高く配置する、土台上部の稲わらは武田菱の形につくる」などの特徴があり、1.5m（5尺）ほどの高さとなる。昨年9月の講習会には組合員30名が参加、現代の名工小林稔蔵氏を講師に門松の歴史や作り方を学んだ後、山梨の名工である清水文一氏と今井正行氏が加わり3名の指導のもと、組合員が4時間ほどかけて門松2対を完成させた。

学んだ伝統技術の発揮と業界のPRのため、山梨県造園建設業協



県庁前の展示  
（山梨県造園建設業協）

同組合では、12月26日から1月11日まで、「武田流門松」1対を山梨県庁別館の正面玄関前に展示した。また、協同組合甲府市造園協会（清水文一理事長 組合員19社）も、甲府市役所庁舎の平和通り側玄関前に展示した。いずれも学んだ技術を披露することで訪れる人や道行く人の多くが足を止め、業界の恰好のPRとなった。

組合では、「時代や消費者ニーズの変化により日本古来の造園の技術を発揮する場が少なくなっている。伝統文化に根付いた専門技能や知識の習得は、造園業者にとって業界の地位向上を図るうえで必要である。伝統技術の継承は責務だと考え、次代に美しい自然環境を残すために、山梨県、甲府市の緑あふれるまちづくりに貢献していきたい。」としている。



甲府市役所前の展示（協）甲府市造園協会